２０２４年9月10日
第42号

JR東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人　椀田優一
編　集　情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

９月１０日号

８月２４日付の東京新聞朝刊に掲載されていた太平洋戦争元特攻隊員への取材記事を目にし、その記事の中で元特攻隊員が言われていた「特攻は志願ではなく命令だった」ということに衝撃を受けた。特攻命令を受けて出撃したものの、悪天候で隊列がバラバラになり命令で引き返すことに。再度出撃する前に終戦を迎えたというが、自ら意を決して特攻に向かうのではなく“命令”で特攻しなければならないということ。上官の命令は絶対であり、誰も上層部の作戦に反対できなかったという。極端に言えば、“死ぬこと”を命令されているのと同じである。人間の尊い命を、物や兵器と同じように扱い、生きることさえ許されないのが戦争なのだということを、記事を読みながら再認識した。

私の曾祖父も、太平洋戦争において異国の地で玉砕し、骨壺の中には紙切れ一枚のみで遺骨は無い。戦争により生きた証が紙切れ一枚になってしまったのだ。絶対に逆らえない上官の命令により出撃させられ、自らの命を犠牲にしなければならない戦争をあなたは容認できるのか？私は容認できないし、曾祖父と同じ境遇にはなりたくないし、させたくない。戦争をさせないためにも、私たち一人ひとりが戦跡などを巡りながら真実を学び、風化させないよう行動しなければならない。

しかしながら、現実を見れば当時を知る戦争経験者も高齢化によりだんだんといなくなっており、戦争を知る人が圧倒的に少なくなっていること。その一方で、政府・自民党は戦争ができる体制づくりのために憲法9条改悪を目指し、議論を加速させている。いかなる理由があっても、戦争を絶対に認めるわけにはいかないし、同じ過ちを繰り返させてはならない。

自分や家族、仲間たちの命を守るためにも平和を希求し、毎月の19行動などの参加をはじめ仲間とともに私は引き続き行動していく。今こそ行動すべきである。

（Ｍ・Ｋ）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。